

平成29年度土木学会全国大会 研究討論会一覧(九州大学伊都キャンパス)							日時:平成29年9月11日(月)、13日(水)	
		日時/会場	題 目		座長および話題提供者			
防 災	【研01】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2303	「複合的自然災害に関する工学的視点からみた地域防災の有り方」 ―阿蘇地域での事象を例として― 地盤工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/jiban/ 火山工学研究小委員会・斜面工学研究小委員会	座長 話題提供者	鈴木素之 中村洋介 山里平 中濃耕司 千葉達朗 瀬戸真之 安養寺 信夫	山口大学 大学院創成科学研究科 教授 斜面工学研究小委員会委員長 福島大学 「活断層布田川断層の活動」 気象庁 「2013-2016年阿蘇山の噴火活動」 東亜コンサルタント 「熊本地震・豪雨による土砂災害」 アジア航測 「UAVによる阿蘇山2016年噴火災害の状況把握」 福島大学 「地形変化、被害の現状と対策」 砂防・地すべり技術センター 「複合的自然災害に対する防災の在り方」			
				2016年熊本地震・豪雨災害から阿蘇山噴火災害へと九州中央部の火山地域での複合自然災害が続いている。このような複合災害の減災・防災を考える意義は大きい。例えば、首都圏では直下型の地震と富士山噴火が連動する可能性が指摘されている。地盤工学委員会の委員は熊本地震と阿蘇山噴火の災害調査を実際に行っている。その成果をまとめ、複合災害の実情と問題点を論議する。①阿蘇火山と熊本地震の特性を解説し、どのような被害が起こったのか、②そしてどのような対調査や応策がされ、③今後の課題はどこにあるのかに迫りたい。総合討論ではこれらの研究成果をもとに、地震・豪雨と火山噴火の複合災害への減災・防災のあり方を討論する。				
社会 イン フラ 維持 管理	【研02】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2403	鋼橋の維持管理の効率化・確実化に向けて ―モニタリング技術の利活用― 鋼橋造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/ 重要な社会資本である橋梁の、効率のかつ確実な維持管理が求められる中、構造物のモニタリング技術に対する期待は大きく高まっている。しかし、構造物の状態をセンサ等により計測・伝送する技術については様々な知見が蓄積されてきているものの、計測されたデータと構造物の劣化・損傷・修繕等の維持管理の現場で必要とされる情報との関連性の解明については技術開発の途上にあり、発展途上であると考えられる。本討論会では、鋼橋のモニタリングの最新技術、それらを活用する上での課題、ならびにそれらを利用した計測の事例を紹介するとともに、今後、モニタリング技術を活用していくうえで開発が望まれる項目とその展望について議論する。	座長 話題提供者	長山智則 伊藤裕一 本間淳史 松田浩 長山智則 宮下剛	東京大学 JR東海 NEXCO東日本 長崎大学 東京大学 長岡技術科学大学			
環 境 技 術	【研03】 9月11日(月) 13:00-15:00 西講義棟第1講義室	「放射性汚染物質を含む廃棄物等をどう安全に始末していくかを考えよう ―事故由来汚染廃棄物対策および放射性廃棄物処分に關わる最近の技術動向―」(仮題) エネルギー委員会(低レベル放射性廃棄物・汚染廃棄物対策に関する研究小委員会) http://committees.jsce.or.jp/enedobo/ 2011年の東日本大震災に伴い発生した東京電力福島第一原子力発電所(以下、1F)事故から6年以上が経過し、1Fにおける汚染水問題等への対策も進んで安定的に推移してきているとともに廃止措置に向けた種々の技術開発等の取組が精力的になれつつある。また、福島県内における除染も進み避難指示区域の解除も徐々に拡大されてきている中、除染に伴う除去土壌等の除染廃棄物を対象とした中間貯蔵施設への搬入や、除去土壌の減容・再生利用の実証試験も始まっている。これらの1Fにおける廃止措置に向けた課題や福島県内における除去土壌等の除染廃棄物を対象とした減容再生利用や中間貯蔵施設計画への取組みの現状と今後の方向性について報告と意見交換を行う。一方、1F事故による影響等もあり事業展開が困難な状況にあった低レベル放射性廃棄物(LLW)や高レベル放射性廃棄物(HLW)の処分事業推進に関する検討も動き始めてきており、これらの課題への最近の取組み状況についても報告をしていただく。それらを踏まえて、事項由来放射性汚染廃棄物と原子力発電所運転に伴う放射性廃棄物の課題全体を俯瞰した今後の取組みの方向性についてフロアを交えて意見交換を行う。	座長 話題提供者	大西有三 出口朗 佐々木泰 加藤和之 油井三和 勝見武 河西基	関西大 客員教授／京都大学 名誉教授 原環機構 技術部長 HLW地層処分事業の最近の取組み状況 日本原燃(株) 開発設計部長 LLW埋設事業の最近の取組み状況 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 執行役員 1F廃止措置に向けての技術開発等の最近の取組み 日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター 特任参与 福島における除染および除去土壌減容・再生に係る研究開発の最近の状況 京都大学大学院 地球環境学堂 教授 土壌特性を踏まえた除去土壌の再生利用の技術動向 (株)アサノ大成基礎エンジニアリング 電力中央研究所 土木学会の活動状況			
	【研04】 9月11日(月) 13:00-15:00 総合学習プラザ大講義室	水工学分野の気候変動適応研究において社会実装の促進に何が必要か？ 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/ 地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、適応策の提案が求められている。しかし、影響評価研究と比較して適応策研究が十分に進み活用されているとはいえない。また、水工学分野の社会実装については検討の重要性が指摘されてはいるが、その方法論については未だ不明瞭なままである。特に、地方自治体においては適応策実装の方法論について模索が続いている状態と言えよう。水工学委員会では適応策に関連する問題を包括的に解決すべく、グローバル気候変動研究推進小委員会を立ち上げた。昨年から引き続き、小委員会メンバーを中心に水工学分野における適応策研究のあり方について議論し、特にその社会実装において必要となる考え方について明らかにしたい。	座長 話題提供者(予定)	中北英一 中北先生 山田先生 橋本典明先生 藤見先生 行政	京都大学防災研究所 京大防災研 気候変動全体論 北大 DS 九大 高潮・洪水 熊大 計画 九地整、福岡県、佐賀県、長野県、などから1、2名			
	【研05】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター1号館1402	低炭素社会に向けた地盤改良と防災(案) 木材工学委員会 地中使用木材の耐久性評価に関する研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/mokuzai/ 2015 年のパリ会議(COP21)では、先進国・途上国を含む世界が2020 年以降の温室効果ガス削減に取り組むことが決定した。土木分野においても土木学会創立100 周年宣言として、持続可能な社会の実現が目標に掲げられた。一方、我が国では都市部に人口・産業が密集し、構造物の維持管理上軟弱地盤の適切な対策が求められ、南海トラフ地震などの発生確率の高い地震に備えるための災害対策も喫緊の課題であるなど地盤に関わる課題が山積している。本討論会では、基調講演として豊富な森林資源を活用した新しい地盤補強技術を報告し、土木・木材の専門家を交えて低炭素社会の実現に向けた地盤改良と防災のあり方を討議したい。	座長 話題提供者(人選中)	原 忠 松橋 利明 松橋 利明 末次 大輔 沼田 淳紀 桃原 郁夫 吉田 雅徳 水谷 羊介	高知大学教授 防災推進センター副センター長 高知市新庁舎建設課 青森県東青地城県民局東青地方漁港漁場整備事務所 計画指導課長 青森県東青地城県民局東青地方漁港漁場整備事務所計画指導課長 佐賀大学准教授 地中使用木材の耐久性評価に関する研究小委員会委員長 飛鳥建設株式会社 技術研究所環境・エネルギーグループ 主席研究員 森林総合研究所 産学官民連携推進担当研究コーディネーター 福井工業高等専門学校教授 兼松サステック株式会社 ジオテック事業部統轄			
	【研06】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター1号館1403	構造物と都市の超先端数値シミュレーションの研究開発と実務利用の可能性 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html 土木工学では、構造解析・交通解析等でさまざまな数値シミュレーションが研究され実務利用されてきた。近年、計算機の進歩と都市情報の増加を利用し、超大規模モデルを桁違いの速度・精度で解析する超先端数値シミュレーションの研究開発が進められている。シミュレーションの基盤となる計算科学・計算機科学・情報科学を踏まえ、超先端数値シミュレーションの研究開発の現状を紹介する。併せて、このような超先端数値シミュレーションを設計・都市計画等の実務に利用する可能性を議論する。	座長(予定) 話題提供者 (予定、案)	市村強 浅井光輝 井科隆雅 澤田正孝 高橋佑弥	東京大学 九州大学 神戸大学 電力中央研究所 東京大学			
	【研07】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2304	「岩盤斜面災害の軽減に向けて ～危険斜面の抽出技術と安定性評価技術～」 岩盤力学委員会 岩盤斜面研究小委員会 http://www.rock-jsce.org/ 岩盤崩落や落石は一旦発生すると社会に大きな影響を与えることが多いが、様々な要因が複雑に絡み合うため、その発生メカニズムの正確な把握や発生の場所・時期・規模などの確実な予測ができるまでには至っていない。そのため、岩盤斜面研究小委員会はこれまで、岩盤斜面に関する知見や研究成果を継続的にとりまとめ、社会や会員へ迅速に提供・発信し、災害軽減に役立てることを目指して活動を行ってきた。本討論会では、小委員会の成果である、1)膨大な岩盤斜面の中から危険性の高い斜面を抽出する技術、2)抽出した斜面の安定性を評価する技術について報告を行い、岩盤斜面災害の一層の軽減に向けて議論する。	座長 話題提供者	緒方健治 田山聡 日外勝仁 小山倫史 他数名	NEXCO中日本 NEXCO西日本 寒地土木研究所 関西大学			
	【研08】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2203	DIVERSITYの視点から見直す：土木計画学における研究と教育 土木計画学研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtm ※ 共催：ダイバーシティ推進委員会 http://committees.jsce.or.jp/diversity/ 土木計画学委員会では研究発表会でも外国人、女性の割合が増え、国際セミナー等を通じた国際的な活動も進めている。しかし、女性、外国人はまだ少数派であり、ロールモデルが少ないのが現状である。本討論会では、外国人として、海外研究経験を持つ日本人として、女性として、あるいはそれら複数の立場から土木計画学や関連分野の研究に携わる先生方を登壇者に迎え、土木分野の研究と教育について議論する。外国人あるいは女性として研究・教育に求められる姿勢とそれに対するお考え、キャリアパスの不足や人材の流動性の拡大等の課題や、今後の土木計画学やその国際化に向けたご期待についてお話を伺い、フロアの聴講者と率直な意見交換を行う。 ※ 言語：日本語(一部英語可)	座長 話題提供者	Giancarlo Troncoso Parady 中道 久美子 藤原 章正 Jan-Dirk Schmoëke 谷口 綾子 村山 顕人 松尾 美和 Wisut Jindawat Wisnoe	東京大学 東京工業大学 広島大学／留学生指導・途上国研究経験が豊富な教員から見た教育・研究 京都大学／外国人から見た研究・教育 筑波大学／女性から見た土木計画学における教育・研究 東京大学／異分野から見た国際研究・教育 神戸大学／海外研究経験のある女性から見た研究・教育 名古屋工業大学／女性外国人から見た研究・教育			
	【研09】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2404	コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメントシステムの社会実装 コンクリート委員会・建設マネジメント委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html http://committees.jsce.or.jp/cmc/ 山口県で構築されたコンクリート構造物のひび割れ抑制システムは、品質確保システムへと発展し、2013年からは東北復興道路での品質・耐久性確保システムへとつながり、社会実装が進められている。その後、群馬県等の各地の自治体・事業者においてもシステムの構築が進められ、2017年度には熊本、阿蘇の復興において山口発の品質確保システムが適用される状況となっている。本研究討論会では、一連の品質・耐久性確保システムの本質を問題解決や人材育成のマネジメントの視点から論じ、システムを社会実装し、持続的に発展していくための課題について議論する。また、システムによる効果と生産性向上の観点からの課題についても議論する。	座長 話題提供者(予定・案)	細田 晁 堀田昌英 河野広隆 田村隆弘 岩城一郎 佐藤和徳 二宮 純	横浜国立大学准教授 東京大学教授 京都大学教授 徳山高専 日本大学 国土交通省東北地方整備局 NEXCO西日本エンジニアリング			
	【研10】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2406	「2030年以降の建設現場の姿」～現場を補完するロボット技術・AI技術の可能性と人の役割～ 建設用ロボット委員会・建設技術研究委員会 http://committees.jsce.or.jp/robot/ http://committees.jsce.or.jp/sekou/ i-Constructionの先、一層進化したロボット技術やAI技術の活用によって改善が進む将来の建設現場の姿を思い描き、そこでの人の役割を考える。ロボット技術やAI技術が将来世代の人間の職を奪うことになると警鐘が鳴らされる今、その利活用の方向性と未来の土木技術者や技能者に求められる資質を考え、これから建設業界が取り組むべき課題を①建設現場におけるロボット技術やAI技術の効果とリスク②ロボット技術やAI技術の利活用の方向性③多様な人材の確保や多様な人材の育成等の観点から議論する。	座長(予定) 話題提供者(予定・案)	山元弘 【基調講演】 穴井宏和 島本卓三 【話題提供者】 山根修治 延藤 遼 北原成郎 古屋 弘	建設用ロボット委員会副委員長 【基調講演】 南富士通研究所 知識情報処理研究所 人工知能研究センター 国土交通省 九州地方整備局 九州技術事務所 建設技術研究委員会委員長 建設技術研究委員会運営副委員長 建設用ロボット委員会災害・事故研究小委員長 建設用ロボット委員会新技術研究小委員長			

平成29年度土木学会全国大会 研究討論会一覧(九州大学伊都キャンパス)					日時:平成29年9月11日(月)、13日(水)	
日時/会場		題 目		座長および話題提供者		
【研11】 9月11日(月) 13:00-15:00	センター2号館2305	先達に学ぶトンネル技術	座長(予定) 話題提供者(予定)	土門 剛 朝倉俊弘 中田雅博	首都大学東京 京都大学名誉教授 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)	
		トンネル工学会運営小委員会 技術交流部会 http://committees.jsce.or.jp/tunnel/				
		主題:日本のトンネル技術は、明治時代から技術改革を重ね、その技術力は大きく向上した。しかしながら近年、トンネル工事そのものの減少、ベテラン技術者の退職等から、技術力の低下が懸念されている。そこで、トンネル技術の世代間継承を目的に、トンネル技術の最前線に関与した各分野の先達たちにその貴重な経験に基づいた話題を提供していただくとした。各種のトンネル技術の導入、工夫、開発、今後の技術展望などについて講演いただき、これからのトンネル技術のあり方を考える場としたい。				
【研12】 9月11日(月) 13:00-15:00	西講義棟第3講義室	原子力土木委員会での危機耐性への取り組み	座長(予定) 話題提供者 (予定、案)	中村 晋 中村 晋 近藤駿介 高田毅士 本田利器 調整中 大友敬三	日本大学、原子力土木委員会委員幹事 日本大学 主旨説明 東京大学・名誉教授、原子力発電環境整備機構・理事長 リスク情報を活用した原子力安全への取り組み 東京大学大学院・教授 原子力発電所の地震安全に関する基本原則構築の試み 東京大学大学院・教授 危機耐性を考慮した耐震設計体制の構築への取り組み 津波に対する対策への取り組み 電力中央研究所 屋外重要土木構造物の取組み	
		原子力土木委員会 http://committees.jsce.or.jp/ceofnp/				
		2011年東北地方太平洋沖地震での被災を受けて、土木学会原子力安全土木技術特定テーマ委員会からの提言として、設計で考慮する事象を越えた事象への対応を考慮する“危機耐性”という概念が提案された。原子力安全の基本思想である深層防護の現状と課題やその設計への反映について、長年我が国のリーダーとしてリードされてきた専門家、その考え方を社会基盤施設の安全へ反映するための枠組みづくりを実施している研究者、および原子力土木委員会での取り組みを紹介する。それを踏まえ、参加者を交えた危機耐性の取り組みに関する討論を行い、そのために乗り越えなければならない課題を明らかにする。				
【研13】 9月11日(月) 13:00-15:00	センター2号館2407	Society5.0(超スマート社会)におけるインフラの新たな維持管理・更新・マネジメントーSIPインフラにおけるAIを用いた技術革新とその可能性ー	座長 話題提供者	藤野 陽三 櫻井 彰人 杉山 将 田中 健一 久田 真 前川 宏一 若原 敏裕	横浜国立大学 上席特別教授 慶應義塾大学 理化学研究所 革新知能統合研究センター 三菱電気 東北大学 東京大学 清水建設	
		SIPインフラ連携委員会				
		ICTを最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間とを融合させ、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」(Society5.0)の実現を目指すことが第五期科学技術基本計画によって示されている。SIPインフラはこのSociety5.0実現に貢献することを重要な目標としており、AI、IoTなどを用い、インフラに関する新たな維持管理・更新・マネジメントに関する技術開発を行っている。本研究討論会ではAI技術の応用例の紹介、AI技術をもとにした技術革新とインフラの維持管理の効率化との関係及び今後の可能性について議論する。特に、インフラの余寿命予測技術とAI技術との融合を中心に、インフラのアセットマネジメントシステムの全国展開をも視座に入れた議論を行う。				
【研14】 9月11日(月) 13:00-15:00	センター2号館2202	分野・部門間協働による防災推進のためのアジア諸国の協力	座長 話題提供者	竹内邦良 未定	アジア土木学会連合協議会TC21共同議長、土木学会ACECC TC21国内支援委員会委員長、山梨大学名誉教授、水災害・リスクマネジメント国際センター前センター長	
		ACECC TC21国内支援委員会 http://committees.jsce.or.jp/acecc/				
		科学技術の進歩にもかかわらず国内外で災害が増加しており、アジア太平洋地域では減災・防災は共通した喫緊の課題になっている。防災に関する科学技術情報が、災害に対する備えや避難の意志決定を行う行政や市民に正確に伝わっていないこと、また学術分野や部門間の意思疎通、知識・知見の伝達が不十分であることが、災害の主因の一つと考えられる。アジア土木学会連合協議会の21番目の技術委員会であるTC21は学術・部門横断的アプローチ(Transdisciplinary Approach)により、災害に強い社会づくりに貢献することを目的として設立された。本研究討論会では、TC21の取組みを紹介するとともに、災害の根本原因の軽減を通じた災害に強い社会づくりについて議論する。				
【研15】 9月11日(月) 13:00-15:00	センター2号館2306	次世代が知りたい土木の魅力とは何か	座長 話題提供者	島谷幸宏 緒方英樹 小松淳	九州大学(土木広報センター 次長／インフラ解説グループ長) 全国建設研修センター(土木広報センター 土木リテラシー促進グループ長) 日本工営(土木広報センター 次長／情報集約・発信グループ長) 国土交通省九州地方整備局 土木学会西部支部 コンサルタント委員会市民交流研究小委員会 学生(九大女子2年生土木系1名、九大女子2年生非土木系1名) 子育てを終えた女性1名	
		土木広報センター http://committees.jsce.or.jp/cprcenter/				
		土木学会の土木広報センターの活動を中心に、土木学会(支部を含む)では土木の魅力市民にどのように伝えているかを紹介していただき、市民への情報発信と市民との交流の場の形成が土木の魅力を伝えるためにどのように活かされているかをパネリスト間で議論していただく。また、西部支部の具体例をもとに議論を進める。さらに、地元の小・中学生などの次世代を担う人々とのふれあい、ユニークな取り組みについて、それらが土木の魅力を伝える広報活動として非常に効果的であることを事例を挙げて紹介していただく。そして、後半で次世代が知りたい土木の魅力とは何か、土木の魅力をどのように次世代に伝えるかを参加者全員で討論する。				
防 災	【研16】 9月11日(月) 13:00-15:00	巨大地震・津波に対し水循環施設はどう備えるべきか	講演者	宮島昌克 宮本勝利 小西康彦 井上涼介 飛田哲男 有賀義明 山中明彦 原田賢治	金沢大学 日本コン 日本コン 元茨城大学 関西大学 弘前大学 パシフィックコンサルタンツ 静岡大学	
		水循環施設の合理的な災害軽減対策研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/				
		兵庫県南部地震以後、巨大地震のたびに水循環施設に被害が生じて国民生活に給水制限やトイレの使用制限などの影響がでている。本討論会ではそれぞれの地震の特徴と被害形態を踏まえて、どのようにしたら今後想定されている巨大地震に備えることができるかを討論する。				
【研18】 9月13日(水) 13:00-15:00	センター2号館2303	非線形地震応答解析の品質保証とそのあるべき姿について考えるー非線形地震応答解析法の妥当性確認/検証方法の体系化についてー	座長 話題提供者	中村晋 堀 宗朗 室野剛隆 大矢陽介 矢部正明 若井明彦 佐竹亮一郎	日本大学工学部土木工学科 国内外の数値解析の妥当性確認/検証方法の現状および小委員会活動について 京大大学地震研究所 巨大地震津波災害予測研究センター HPCを用いたシミュレーション (公財)鉄道総合技術研究所 鉄道地震工学研究センター 鉄道構造物の地震応答解析 (国研)港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 港湾構造物の地震応答解析 (株)長大 構造事業本部 道路構造物の地震応答解析 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 地盤工学分野での数値解析 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 地盤工学分野での数値解析	
		地震工学委員会・地盤・構造物の非線形地震応答解析法の妥当性確認/検証方法の体系化に関する研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/				
		1995年兵庫県南部地震以降、耐震設計に関する基準類は、非線形地震応答解析を活用し、耐震性能の評価を行う体系に改訂された。施工に係わる品質保証と同様に、複雑な地震時挙動の設計や評価に数値解析を活用するためには、その品質や信頼性を向上させる枠組みの構築が急務と考えられる。さらに、その構築は、有限要素法から最近の粒子法などの非線形地震応答解析法の適切な発展を促進する意味でも重要となる。研究討論会では、耐震設計などで利活用が増加している非線形地震応答解析法の品質評価の現状を認識し、体系化の必要性和そのコンセンサスを形成するとともにそれに必要な課題を明らかにすることを目的とした討論を行う。				
【研19】 9月13日(水) 13:00-15:00	センター1号館1402	「構造設計における目標安全性水準の設定 ～ How safe is safe enough? ～」	座長 話題提供者(予定)	佐藤尚次 高田毅士 蛭沢勝三 菊池喜昭 有川太郎 秋山充良	中央大学教授 「設計基準体系における安全性照査ガイドライン策定小委員会」委員長 東京大学：建築分野 電力中央研究所：原子力分野 東京理科大学：地盤分野 中央大学：河川・海岸分野 早稲田大学：構造分野	
		構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm				
		構造工学委員会では、「設計基準体系における安全性照査ガイドライン策定小委員会」を設立し、重要課題について討議を重ねてきたが、その中で最も重要なテーマである「目標安全性水準の設定」についての討議内容を紹介し、参加者からご意見をいただき、今後の活動に反映させたい。 討議の主な観点としては、地震作用のような低頻度の変動作用や偶発作用が主たる作用となる限界状態、全確率か条件付き確率か、リスクの経済・社会的受容性、国際標準ISO2394で紹介されているLQI(Life Quality Index)の考え方、などがある。 How safe is safe enough?という問いかけに対して、皆さんはどのように答えますか？				
【研20】 9月13日(水) 13:00-15:00	センター1号館1403	鋼・コンクリート複合構造物と水ー構造物の寿命を全うさせるために水を管理するー	座長 話題提供者	大西 弘志 大西 弘志 大塚 努 廣河 了亮 西内 達雄 西 弘	岩手大学 岩手大学 東京地下鉄(株) 高槻市 (一財)電力中央研究所 (株)CORE技術研究所	
		複合構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/index.html				
		我が国では橋梁等において水が原因と考えられる損傷が多発し、構造物としての寿命が大幅に短縮されているとの研究結果から、橋梁への水対策は維持管理上必要不可欠となっている。しかし、これらの構造物に対して水がどのように浸入して損傷を与えているかが明確になっていないため、防水・排水工も多種多様な手法が提案されている。水対策工の施工にあたっては施工困難箇所や交通規制等施工条件が厳しい場合への対応など、従来工法においてもまだに課題は多く、供用下にある構造物の寿命を保全できているのかどうかについて議論の余地がある。 そこで本研究討論会では、鋼やコンクリートと水の接点から、複合構造物と水の関連性について基本から再確認する。具体的には、各種構造物において、水によりどのような損傷が生じているか、防水・排水対策をどのように行っているかを報告してもらい、これまでは見落としていた事象や、参考になる技術について討論したいと考えている。また、防水・排水小委員会(H210(終了)、H214(活動中))における活動報告を行い、多様な観点を持った技術者から、今後の検討方針について活発かつ有益なご意見をいただきたいと考えている。				
【研21】 9月13日(水) 13:00-15:00	センター2号館2403	人にやさしい地下空間の創造に向けてー地下空間のわかりやすさ、歩きやすさー	座長 話題提供者(案)	清水 則一 樋口 敬 古川 隆一 今泉 晁音 工藤 康博	地下空間研究委員会 心理小委員会委員(山口大学教授) 福岡市地下鉄事業者(福岡市交通局施設部施設設計課建築設計係) 天神地区地下街事業者(福岡地下街開発株式会社管理部) 行動心理の研究者 心理小委員会委員(福岡大学助教) 都市計画の専門家 計画小委員会委員(地下空間研究委員会顧問)	
		地下空間研究委員会 http://www.jsce-ousr.org/				
		わが国の都市では、地下鉄や地下街、地下道、地下駐車場などの地下空間が建設されてきた。今では、それぞれの歩行空間がネットワークされ、民地ビルの地下階にまでシームレスに連絡されており、不特定多数の人々が行き交う、都市の活動を支える重要なインフラとなっている。その一方で、地下空間特有の閉鎖性や迷路性に加え、平面的にも立体的にも複雑な空間となっている施設もある。各施設では、その改善に取り組んでいるが、いまだ、誰もがわかりやすい空間になっているとはいえない。わかりやすく、歩きやすい空間形成を進めることで、常時だけでなく、災害時にも安全に避難することが可能になる。討論会ではこのような地下空間施設の現状に着目し、立場の異なる様々な専門家を交え、利用者の行動の側面を中心に意見交換したいと考えている。				

	日時/会場	題 目	座長および話題提供者		
			座長 話題提供者(仮)	清水 満 近藤政弘 桑原 清 丸田新市 藤岡一頼 澤田 亮	東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 次長 西日本旅客鉄道株式会社 株式会社ジェイテック 植村技研工業株式会社 NEXCO 総研 鉄道総合技術研究所 他
	【研22】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2304	都市機能のリノベーションとトンネル技術の応用 トンネル工学委員会(特殊トンネル部会) http://committees.jsce.or.jp/tunnel/			鉄道などで分断されているまちの活性化や鉄道踏切、幹線道路の渋滞緩和などによる都市機能の効率化を目的に、鉄道と道路や河川・水路などの立体交差事業が実施される。この場合、オーバースペース型やアンダーパス型の横断施設が施工されるが、近年では特にアンダーパス型が多用される傾向にある。これは、日本の高いトンネル技術を背景にその応用技術が発展したためと考えられる。本研究討論会では、トンネル技術を応用したアンダーパス型の横断施設の設計・施工に関して、これまでの変遷を総括するとともに、都市機能のリノベーションにより貢献するトンネルの技術開発の展望について議論を深める。
	【研23】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2404	質の高いインフラ投資の実現に向けたODA事業の改善方策 建設マネジメント委員会 http://committees.jsce.or.jp/cmc/	座長(予定) 話題提供者 (予定、案)	小澤一雅	東京大学 土木学会建設マネジメント委員会ODA活用小委員会 国土交通省総合政策局 海外プロジェクト推進課 独立行政法人 国際協力機構 一般社団法人 海外建設協会 一般社団法人 海外コンサルタンツ協会
	【研24】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2406	(仮)「インフラメンテナンスへのロボット技術の導入」～現状と将来展望～ 建設用ロボット委員会 http://committees.jsce.or.jp/robot/	座長 基調講演 話題提供者	建山和由 新田恭士 現在調整中	立命館大学理工学部教授、建設用ロボット委員会委員長 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画専門官 道路管理者、鉄道事業者、ライフライン事業者、 コンサルタント会社等
	【研25】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2407	官民連携のまちづくり活動における市民合意形成 コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp	座長 話題提供者(予定)	上野俊司 学識者 1名 森本章倫 自治体等 1名 調整中 実務者 2名 林 将廣 伊藤将司	国際航業株式会社 早稲田大学理工学術院 社会環境工学科 教授 地元活動団体等 株式会社アイ・エス・エス 株式会社福山コンサルタント
	【研26】 9月13日(水) 13:00-15:00 西講義棟第1講義室	下水再生水の利用促進における環境工学の役割 環境工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec/	座長 話題提供者 (予定、案)	久場 隆広 吉村 雅之 山下 洋正 田中 宏明 大熊 那夫紀	九州大学 福岡市下水道局 下水再生水の30年間以上に渡る天神地区等への給水状況と新技術導入 国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水処理研究室 室長 国内の再生水利用紹介とISO国際規格化 京都大学 下水再生水の農業利用と病原体リスク 造水促進センター 下水再利用のためのMBR+ROシステムの事例紹介
	【研27】 9月13日(水) 13:00-15:00 西講義棟第1講義室	技術伝承における映像の果たす役割 ～九州の土木遺産を中心として～ 土木技術映像委員会 http://committees.jsce.or.jp/avc/	座長 話題提供者	大野 春雄	土木学会土木技術映像委員会委員長(建設教育研究推進機構理事長・攻玉社工科短期大学名誉教授) 文化財関係者 土木映画カメラマン 土木技術映像委員会委員 他
	【研28】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2203	継続教育におけるe-ラーニングの展開 継続教育実施委員会 http://committees.jsce.or.jp/opcet/01_committee	座長 話題提供者	竹村 次朗 福原 美三 岸田 徹 石川 孝重 大和 則夫 鷺見 浩一	継続教育実施委員会委員長:東京工業大学 (一社)日本オープンオンライン教育推進協議会事務局長:明治大学特任教授) ①社会人の学びのトレンド/国の政策動向 (株)ネットラーニング 代表取締役 ②技術シーズ:e-ラーニングの技術的動向 (一社)日本建築学会:日本女子大学 教授 ③先行学協会 建設コンサルタンツ協会九州支部理事:(株)東京建設コンサルタント 専務執行役員九州支社長 ④外部のe-ラーニングに期待すること 継続教育実施委員会e-ラーニング運営小委員会委員長:日本大学 教授 ⑤継続教育実施委員会
	【研29】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2202	「若手技術者の失敗に学ぶ～Innovation 若手技術者による土木“革新”2017」 若手会員パワーアップ小委員会 http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/	座長(予定) 話題提供者(予定)		企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 他
	【研30】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2306	「(仮)道路インフラが情報発信する未来」 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	座長 話題提供者(予定)	河村小委員長	山口大学 インフラモニタリング技術研究小委員会委員ほか3～4名(予定)